

実務経験のある教員による授業科目(環境情報学科2022年度以前入学生)

区分	2017~2022年度以降入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師 区分	担当教員	ページ	備考
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
全学 共通 教育 科目	「人間たれ」	「人間たれ」I	②	○									鬼頭 浩文 他	1	
	情報と職業	地域社会とメディア情報	2		○								黒田 淳哉 柳瀬 元志	25	
	四日市学	四日市学	2	○									兼 岡 良浩 他	27	
	人権論	「人間たれ」II	2		○								兼 小林 慶太郎 他	30	
	地域社会と環境	地域社会と環境	2	○									野呂 達哉	31	
	地域防災		2	○									鬼頭 浩文	32	オンデマンド
	社会福祉概論	社会福祉概論	2		○								兼 松本 彩月	40	
	科学的思考論		2	○									非 吉山 青翔	52	
	地学概論	地学概論	2	○									非 森 康則	55	オンデマンド
	生物と進化	野生動物学	2		○								野呂 達哉	57	
	環境論		2		○								非 吉山 青翔	58	
	キャリア基礎 I	キャリア基礎b	②		○								兼 三田 泰雅 他	60	
	国際協力研修	国際協力研修	2		集								兼 岩崎 祐子 鬼頭 浩文	65	
	インターンシップ	インターンシップa	2			▲							兼 岡 良浩	66	
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	2		○								非 長野ゆき子	77	
	販売士講座		2			○							非 山川 和美	78	
	ビジネスコミュニケーション		2			○							非 長野ゆき子	79	
	ビジネスマネジメント		2					○					兼 岩崎 祐子 二村 建也	81	
	おもてなし特別講義a		2			○							兼 岡 良浩	83	
	検定英語 I		2					○					非 川崎 綾子	92	
	検定英語 II		2						○				非 武藤 和成	93	
	メディアツールb	グラフィックツール2	2		○								非 武藤 和成	95	
	メディアツールd	電子音楽ツール	2				○						非 西尾 秀樹	97	
Webデザインb	Webデザイン	2						○				非 柳澤 翔士	98		
インターネット論	ITリテラシー	2			○							堀内 敬弘 柳澤 翔士	101		
専門 教育 科目	環境情報学概論 I	環境情報学概論 I	②	○									前川 督雄	111	
	四日市公害論	都市環境学	②				集						非 森 康則	114	
	環境保全学	環境保全学	2				○						野呂 達哉	163	
	地域環境論	地域連携環境講義	2	○									千葉 賢	166	
	環境エネルギー論		2					集					非 森 康則	167	
	資源循環論		2						○				非 森 康則	168	オンデマンド
	コンピュータ音楽論		2						○				柳澤 翔士	194	
	表現と思想	作品制作	2				○						柳瀬 元志	198	
	映像概論	映像概論	2				○						柳瀬 元志	199	
	照明概論	音響照明技術	2				集						足立 明信 黒田 淳哉	200	
	音響概論	音響照明概論	2					○					足立 明信 黒田 淳哉	201	オンデマンド
	クリエイティブワークII		2						○				柳瀬 元志	202	
	イベント制作演習		2							○			黒田 淳哉	203	
	プログラミング	プログラミング実習応用1	2				○						足立 明信	205	
	データベースプログラミング		2							○			足立 明信	208	
	情報システム論		2							○			池田 幹男	209	

授業科目名	「人間たれ」	科目コード	171001	授業コード	415101
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。				
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。				
授業計画	第1講 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」 第2講 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第3講 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第4講 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第5講 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所の運営経験（齋藤） 第6講 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が全壊（北村） 第7講 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難生活（雁部） 第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講 教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講 教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講 教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講 教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講 教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す				
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成				
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	情報と職業	科目コード	171204	授業コード	413804
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志	科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を志向した学修を通じて地域に貢献する人材になる。</li> <li>・地域の持続発展のために貢献できる。</li> </ul>				
授業のねらい	メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信をおこなっている方々からの声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。</li> <li>・学びを地域に関連した研究活動や、作品制作活動、将来のビジョンに繋げる。</li> </ul>				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 ラジオ 第3講 グラフィックデザイン 第4講 舞台 第5講 TVディレクター 第6講 ケーブルテレビ 第7講 カメラマン 第8講 広告 第9講 イベントホール 第10講 新聞 第11講 シティプロモーション 第12講 情報と職業 1 第13講 情報と職業 2 第14講 情報と職業 3 第15講 まとめ ※講義順は変更の可能性があります。				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	予習 次週の講義に関してインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料を見返し理解を深めること（90分）。				
成績評価方法	定期試験を行いません。受講態度と各回の講義で提出するレポートで評価し、合算します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。				
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツッペーパーやレポートを提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツッペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ミニツッペーパー、レポート、ディスカッション				
実務経験のある教員	20年以上メディア業界で経験を積んだ専門家が、この講義の司会進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。				
担当者から一言	必要な作業以外でのスマートフォンの使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。				

授業科目名	四日市学	科目コード	171301	授業コード	415201
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	<p>この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境などを理解し多面的に四日市について考える機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。</p> <p>これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただ</p>				
到達目標	<p>講義は10回にわたる様々なテーマの座学と2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「四日市」を多面的に理解すること</li> <li>2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること</li> <li>3. 地域の課題を発見して考察を行うこと</li> <li>4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること</li> </ol>				
授業計画	<p>第1講(4/05) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡・鬼頭)</p> <p>第2講(4/12) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]; 四日市公害と環境未来館)</p> <p>第3講(4/19) 「四日市の産業」(岡[司会]; 四日市市商工農水部)</p> <p>第4講(4/26) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義])</p> <p>第5講(5/10) 「四日市の歴史」(永井[司会]; 四日市市博物館学芸員)</p> <p>第6講(5/17) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]; 四日市市多文化共生推進室)</p> <p>第7講(5/24) 「四日市の食」(小林[司会・講義]; とんてき協会関連)</p> <p>第8講(5/31) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]; 四日市市都市整備部)</p> <p>第9講(6/07) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]; 四日市市文化課)</p> <p>第10講(6/14) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]; 四日市市シティプロモーション部)</p> <p>* 講師都合によっては、内容が変更になることがあります。</p> <p>(フィールドワーク)</p> <p>第11~12講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 講義期間中に、博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。</p> <p>第13~15講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 講義期間中に、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。				
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報を見る準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。				
成績評価方法	成績評価は、1~10週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度(50%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(20%)で総合評価します。				
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	人権論	科目コード	171304	授業コード	415501
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。				
授業計画	<p>第1講（9/27） ガイダンス 「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林）</p> <p>第2講（10/4） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（岩崎）</p> <p>第3講（10/11） ダイバーシティと「人間たれ」（小林）</p> <p>第4講（10/18） 日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省 津財務事務所）</p> <p>第5講（10/25） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（小林）</p> <p>第6講（11/1） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員））</p> <p>第7講（11/8） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（三田）</p> <p>第8講（11/15） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（浅井）</p> <p>第9講（11/22） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（倉田）</p> <p>第10講（11/29） 世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林）</p> <p>第11講（12/6） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ラマ・カンチャさん）</p> <p>第12講（12/13） 外国で働くということ（オイスカ）</p> <p>第13講（12/20） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑥（永井）</p> <p>第14講（1/10） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑦（フェハリー）</p> <p>第15講（1/17） 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について（小林）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。				
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。				
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	171305	授業コード	415306	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	GEC1005			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。授						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域防災	科目コード	171306	授業コード	415305
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)				
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。				
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド</p> <p>1 4/5 ガイダンス(対面)/補講1；近年の災害 2 4/12 第1講；地震・津波/第2講；気象災害・風水害/第9講；行政の災害対策 3 4/19 第7講；ハザードマップ/補講2；耐震補強/第20講；災ボラ/第17講；自主防 4 4/26 第11講；復旧・復興/第12講；災害医療/第18講；避難所 5 5/11 午前；防災士養成講座(会場研修)① 6 5/11 午後；普通救命講習(場所：体育館) 7 5/12 午前；防災士養成講座(会場研修)② 8 5/12 午後；防災士養成講座(会場研修)③ 9 5/18 午前；防災士養成講座(会場研修)④ 10 5/18 午後；防災士養成講座(会場研修)⑤ 11 5/24 第3講；土砂災/第4講；火山/第5講；火災 12 5/31 第6講；予報・警報/第8講；災害情報/第10講；行政 13 6/7 第13講；ライフライン/第14講；事業継続/第15講；地震への備え 14 6/14 第16講；風水害への備え/補講3；損保 15 6/21 第19講；多様性/第21講；防災士/補講4；訓練 学期末試験：6/28 ★8月3日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。				
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。				
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。				
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。				
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。				
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。				
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。				

授業科目名	社会福祉概論		科目コード	171407	授業コード	411604	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GLAS1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史的変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11版』ミネルヴァ書房（2019年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、グループワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	科学的思考論	科目コード	171601	授業コード	411407
担当教員	吉山 青翔	科目ナンバリング	GLAN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学的な思考方法を展開します。				
到達目標	自然科学の全体的な姿を歴史的に把握する。 科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 古代オリエント科学の概観 第3講 古代ギリシア科学の概観 第4講 中世の科学と近代大学の誕生 第5講 近代科学の開始：コペルニクスの地動説の成立 第6講 地動説をめぐる科学と宗教の闘争：ガリレオ裁判 第7講 万有引力法則の発見と近代力学の成立 第8講 中間テスト 第9講 理髪師から近代解剖学へ 第10講 血液循環説の確立と近代医学の成立 第11講 酸素の発見と近代化学の成立 第12講 進化論の確立と近代生物学の成立 第13講 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生 第14講 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。				
事前・事後学習	事前・事後に授業の内容を確認すること（それぞれ30分程度）。				
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。				
授業内の課題・提出方法	授業後、授業の内容を確認し、質問等に関して、次週の授業前にミニレポートの形で提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったミニレポートに関して、授業中適宜にコメント・補足します。				
アクティブラーニング	授業の内容に関するキーワードを中心に調べ、ミニツツペーパーの形にまとめ、提出してもらおう。				
実務経験のある教員	役場・民間企業等勤務経験あり。				
担当者から一言	人間社会に欠かせない人間の知力の1つ＝科学的思考力を身につけましょう。				

授業科目名	地学概論	科目コード	171606	授業コード	411101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある地学的事象の事例を交えながら学んでいきます。				
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物1 第4講 岩石と鉱物2 第5講 化石 第6講 地質年代1 第7講 地質年代2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害1 第13講 自然災害2 第14講 温泉1 第15講 温泉2				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）レポート課題 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等があれば、Moodleやメールにていつでも受け付けます。				
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。				
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。				

授業科目名	生物と進化	科目コード	171608	授業コード	413505
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。				
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に係る法律・条約 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。				
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。				
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。				

授業科目名	環境論	科目コード	171609	授業コード	411808
担当教員	吉山 青翔	科目ナンバリング	GLAN1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。				
到達目標	環境問題の全体像を把握し、自分の環境観を形成する。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「自然」の定義と仕組み 第3講 「環境」の定義と仕組み 第4講 「文化」の定義と仕組み 第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性 第6講 環境に関する人類の認識1：ヒポクラテスによる医学上の見解 第7講 環境に関する人類の認識2：C. ダーウィンによる生物学上の見解 第8講 中間テスト 第9講 環境に関する人類の認識3：C. ベルナルによる生理学上の見解 第10講 環境に関する人類の認識4：C. ラッツェルによる地理学上の見解 第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見 第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生 第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告 第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化 第15講 まとめ：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	参考資料 フランク・ユケッター著、和田佐規子訳『ナチスと自然保護』（築地書館株式会社、2015年）、その他（随時に授業内容に関する資料指定・配布します）。				
事前・事後学習	授業前に次回の授業内容を確認し、授業後に授業の内容を確認してください。（それぞれ20分程度）				
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。				
授業内の課題・提出方法	授業の内容に関するミニレポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったレポートを、次回の授業で適宜にコメントします。				
アクティブラーニング	授業の内容に関するキーワードを中心に調べ、ミニツツペーパーの形にまとめ、提出してもらいます。				
実務経験のある教員	役場・民間企業等勤務経験あり。				
担当者から一言	現代社会に求められる現代教養の1つ＝環境観を持ちましょう。				

授業科目名	キャリア基礎 I	科目コード	171701	授業コード	411701
担当教員	三田 泰雅	科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。				
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。				
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる				
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①働くとは 3 労働②さまざまな働き方 4 労働③日本の働き方 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③日本をとりまく世界の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて				
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。				
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）				
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。				
アクティブラーニング	小レポート グループワーク				
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。				
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。				

授業科目名	国際協力研修		科目コード	171803	授業コード	416502	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GESC1003			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。						
到達目標	1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身に付けます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。						
テキスト・教材（参考文献）	（大学の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。 （大学外の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページで、研修先の国の情報を調べてください。						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）						
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50%）活動日誌・レポート（50%） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50%）レポート（50%） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
アクティブラーニング	海外で、国際協力活動、フィールドワークに参加します。						
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国際経済を研究対象としています。						
担当者から一言	2025年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。						

授業科目名	インターンシップ	科目コード	171804	授業コード	416104
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩	科目ナンバリング	GESC1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。				
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること				
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。				
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 4月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布 4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表 5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表 6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 8～9月：インターンシップ 10月：事後面談・・・レポート提出 11月以降：単位認定 *春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。				
テキスト・教材（参考文献）	とくになし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。				

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	172301	授業コード	415601	
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていけばよいかを学びます。そのうえで、一般的なビジネスマナーの知識・考え方・所作を学びます。 表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手部と言った非言語コミュニケーションも含まれます。この応用としてビジネスマナーがあります。 職場内やお客様との間での様々なシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。						
到達目標	社会人としてビジネスマナーの基本を身に付けており、社会生活の中のさまざまなシーンで実践できることです。まずは、相手との関係性において適切な自己表現ができることが目標です。 ①人間関係づくりの考え方を学ぶこと。 ②一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。 ③ビジネスシーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。						
授業計画	① 9/27 ガイダンス・人間関係作り① 価値交流 ② 10/4 人間関係作り② コミュニケーションとは ③ 10/11 人間関係作り③ パフォーマンス学 ④ 10/18 人間関係作り④ 話し方・聞き方 ⑤ 10/25 人間関係作り⑤ 聞き方・考え方 ⑥ 11/1 一般的なマナー① 敬語① ⑦ 11/8 一般的なマナー② 敬語② ⑧ 11/15 一般的なマナー③ 表情・声・身体表現① ⑨ 11/22 一般的なマナー④ 表情・声・身体表現② ⑩ 11/29 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相 ⑪ 12/6 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー ⑫ 12/13 ビジネスマナー③ 一般文書トビジネス文書（メール・封筒・ハガキの書き方） ⑬ 12/20 ビジネスマナー④ プレゼンテーション（原稿作成・言語非言語表現） ⑭ 1/10 ビジネスマナー⑤ クレーム対応（場面に応じた対応） ⑮ 1/17 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。						
事前・事後学習	予習：授業中に宿題内容を指示します。 次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習してきます。 次回講義内容に関係した課題を調べてきます。  復習：毎回の講義で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をしてきます。						
成績評価方法	定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。 小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。 小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、今回の講義内容の重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の初めに、前回授業内容の重要点事項・小テスト内容のポイントなどの振り返り授業を行います。学生を指名して解答して頂いただき、理解度を計ることをしたり、グループディスカッションを通じて定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により学習の形態を変えます。 コメントシート、ミニツツペーパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション原稿を作詞して実技発表。 グループワーク。ペアワーク発表。						
実務経験のある教員	民間企業勤務。企業研修講師。						
担当者から一言	外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。						

授業科目名	販売士講座		科目コード	172303	授業コード	414104	
担当教員	山川 和美		科目ナンバリング	GSHM1003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。						
到達目標	<p>目標は以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。</li> <li>● 店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。</li> <li>● 店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 講義の概要  第2講 ストアオペレーションのポイント①  第3講 ストアオペレーションのポイント②  第4講 ストアオペレーションのポイント③  第5講 小売業の類型のポイント①  第6講 小売業の類型のポイント②  第7講 小売業の類型のポイント③  第8講 マーチャンダイジングのポイント①  第9講 マーチャンダイジングのポイント②  第10講 販売・経営管理のポイント①  第11講 販売・経営管理のポイント②  第12講 販売・経営管理のポイント③  第13講 リテールマーケティングのポイント①  第14講 リテールマーケティングのポイント②  第15講 まとめ  定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし（必要に応じてプリントを配布します） 【参考文献】日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック（2冊セット）」キャリアック（2019年）						
事前・事後学習	予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（1日15分） 復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・課題60点、定期試験40点						
授業内の課題・提出方法	課題：毎回の講義で簡単な課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、適宜授業でフィードバックします。						
アクティブラーニング	コメントシート グループワーク（初回のみ） 簡単な実習						
実務経験のある教員	郵政省での勤務経験や小売業界での販売経験を活かした講義や実習を行います。						
担当者から一言	店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション		科目コード	172304	授業コード	412402																																													
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1004																																															
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択																																												
授業の位置づけ	希望する進路に応じたスキル、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを習得します。授業を通じて論理的思考力と自己表現力を養います。																																																		
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者を目指して様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るく活き活きと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけ顧客を意識した接客技術・説明力・説得力・プレゼンテーション力に重点を置いたロールプレイング中心となります。担当講師は企業研修講師で実務経験者です。哲学や心理学を含めたエビデンスに基づく講義内容や豊富な経験に基づく多彩な話を織り込んだ講義内容です。																																																		
到達目標	コミュニケーションは人間関係づくりの基本であり欠かせないスキルです。そして実社会では、特に周りとの人間関係を有効に保ちながら主体的に生きるための土台となるものです。 ビジネスにおけるコミュニケーションスキルの理論とスキルを実践的に学び、相手目線に立ち臨機応変に対応できるスキルを身に付けることが到達目標です。																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>① 4/9</td> <td>ガイダンスと仕事の意義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 4/16</td> <td>接客マナー「おもてなし」</td> <td>「おもてなしとマナー」</td> </tr> <tr> <td>③ 4/23</td> <td>パフォーマンス学</td> <td>場と関わりの自己表現</td> </tr> <tr> <td>④ 5/7</td> <td>おもてなしの技術①</td> <td>第一印象</td> </tr> <tr> <td>⑤ 5/14</td> <td>おもてなしの技術②</td> <td>接客力</td> </tr> <tr> <td>⑥ 5/21</td> <td>おもてなしの技術③</td> <td>電話・レター・メール</td> </tr> <tr> <td>⑦ 5/28</td> <td>おもてなしの技術④</td> <td>社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」</td> </tr> <tr> <td>⑧ 6/4</td> <td>コミュニケーションスキル①</td> <td>心理学TA</td> </tr> <tr> <td>⑨ 6/11</td> <td>コミュニケーションスキル②</td> <td>アサーション</td> </tr> <tr> <td>⑩ 6/18</td> <td>コミュニケーションスキル③</td> <td>セルフコーチングの基本</td> </tr> <tr> <td>⑪ 6/25</td> <td>ビジネススキル①</td> <td>説明力・説得力</td> </tr> <tr> <td>⑫ 7/2</td> <td>ビジネススキル②</td> <td>合意形成</td> </tr> <tr> <td>⑬ 7/9</td> <td>ビジネススキル③</td> <td>プレゼンテーションⅠ</td> </tr> <tr> <td>⑭ 7/16</td> <td>ビジネススキル④</td> <td>プレゼンテーションⅡ</td> </tr> <tr> <td>⑮ 7/23</td> <td>総復習</td> <td>おもてなし溢れるコミュニケーション</td> </tr> </table> <p>定期試験</p>						① 4/9	ガイダンスと仕事の意義		② 4/16	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナー」	③ 4/23	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現	④ 5/7	おもてなしの技術①	第一印象	⑤ 5/14	おもてなしの技術②	接客力	⑥ 5/21	おもてなしの技術③	電話・レター・メール	⑦ 5/28	おもてなしの技術④	社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」	⑧ 6/4	コミュニケーションスキル①	心理学TA	⑨ 6/11	コミュニケーションスキル②	アサーション	⑩ 6/18	コミュニケーションスキル③	セルフコーチングの基本	⑪ 6/25	ビジネススキル①	説明力・説得力	⑫ 7/2	ビジネススキル②	合意形成	⑬ 7/9	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ	⑭ 7/16	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ	⑮ 7/23	総復習	おもてなし溢れるコミュニケーション
① 4/9	ガイダンスと仕事の意義																																																		
② 4/16	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナー」																																																	
③ 4/23	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現																																																	
④ 5/7	おもてなしの技術①	第一印象																																																	
⑤ 5/14	おもてなしの技術②	接客力																																																	
⑥ 5/21	おもてなしの技術③	電話・レター・メール																																																	
⑦ 5/28	おもてなしの技術④	社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」																																																	
⑧ 6/4	コミュニケーションスキル①	心理学TA																																																	
⑨ 6/11	コミュニケーションスキル②	アサーション																																																	
⑩ 6/18	コミュニケーションスキル③	セルフコーチングの基本																																																	
⑪ 6/25	ビジネススキル①	説明力・説得力																																																	
⑫ 7/2	ビジネススキル②	合意形成																																																	
⑬ 7/9	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ																																																	
⑭ 7/16	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ																																																	
⑮ 7/23	総復習	おもてなし溢れるコミュニケーション																																																	
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。																																																		
事前・事後学習	<p>予習：次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習することです。 次回講義内容に関係した課題を調べることです。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をすることです。</p>																																																		
成績評価方法	<p>定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。</p> <p>小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。</p> <p>小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。</p>																																																		
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に、今回の講義内容を重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。</p>																																																		
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>毎回講義の初めに、前回講義内容の重点事項・小テスト内容の振り返り授業をします。 学生に指名して解答していただき理解度を計ったり、グループディスカッションをして定着度を確認するときもあります。</p>																																																		
アクティブラーニング	<p>毎回の講義内容により学習の形態を変えます。</p> <p>コメントシート・ミニッツペーパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション実技発表。フィードバックワーク。 ブルーワーク・ペアワーク発表。</p>																																																		
実務経験のある教員	民間企業勤務、企業研修講師。																																																		
担当者から一言	この授業はオペレーション演習を受講する前提となります。外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。																																																		

授業科目名	ビジネスマネジメント		科目コード	172307	授業コード	412101	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GSHM1007			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義の第2講～第6講（担当：岩崎）は、企業側の立場からみたコーポレートファイナンス（企業の資金調達）の基礎を学びます。 次に、第7講～第15講（担当：二村）は、企業が資金調達をするさいに重要になる、ファイナンスの考え方と経営計画・経営分析を学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレートファイナンスの基本を理解する</li> <li>・ファイナンス理論の基本的な考え方を理解する</li> <li>・経営計画の基本を理解する</li> <li>・経営分析の方法を理解する</li> </ul>						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 企業の資金構成 第3講 コーポレートファイナンスの実際1 第4講 コーポレートファイナンスの実際2 第5講 銀行の役割と課題 第6講 中間試験 第7講 現在価値と将来価値 第8講 リスク 第9講 利益とキャッシュのちがひ 第10講 信用 第11講 経営計画の策定1 第12講 経営計画の策定2 第13講 経営分析1 第14講 経営分析2 第15講 経営分析3・まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料は毎回プリントを配布する。 （参考文献） 西山茂「「専門家」以外の人のための決算書&ファイナンスの教科書」東洋経済新報社（2019年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前：新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ（90分） 事後：授業の復習と関連情報の収集をする。上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、経営計画や経営分析を確認する（90分）						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、授業内レポートなど）40% 中間試験20% 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容に関する課題を出します。授業時間内に提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートなど課題は適宜コメントをします。						
アクティブラーニング	授業内レポートを複数回、提出してもらいます。						
実務経験のある教員	（二村）経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	コーポレートファイナンス、経営計画の策定、経営分析の知識はいずれも、広くビジネスの世界で求められるものです。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。						

授業科目名	おもてなし特別講義 a		科目コード	172309	授業コード	413406	
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GSHM1009			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。 企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われれます。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。具体的には「三重のサステナブル経営アワード」受賞企業や教員が推薦する企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。 そのうえで成功の要因や普遍化（共通する点、他企業・他業態への応用の可能性）を考察していただきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営の成功事例を理解する。</li> <li>・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。</li> </ul>						
授業計画	第1回 4/10 ガイダンス 第2回 4/17 外部講師による講義（三重県） 第3回 4/24外部講師（企業経営者）による講義 第4回 5/ 8外部講師（企業経営者）による講義 第5回 5/15外部講師（企業経営者）による講義 第6回 5/22中間レポート1 第7回 5/29外部講師（企業経営者）による講義 第8回 6/5外部講師（企業経営者）による講義 第9回 6/12外部講師（企業経営者）による講義 第10回 6/19中間レポート2 第11回 6/26外部講師（企業経営者）による講義 第12回 7/3外部講師（企業経営者）による講義 第13回 7/10 外部講師（企業経営者）による講義 第14回 7/17企業レポート作成 第15回 7/24企業レポート発表 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布予定です。 ※本学教員による講義に替えることがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑） 40% 中間レポートおよび発表 30% 定期試験（レポート試験） 30%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただきます。 授業中に中間レポートを作成します。 （いずれもMoodleを利用予定）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
アクティブラーニング	企業講義のなかで、特定の課題についてグループワーク等の課題が提示されることがあります。その場合は状況に応じて積極的に行うことが求められます。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。						
担当者から一言	多くの経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になります。就職活動にも役立ちます。外部の方々の中には、学生とほとんど接する機会のない方々もおられます。大人としてのマナーを守って受講してください。						

授業科目名	検定英語 I	科目コード	172409	授業コード	411405
担当教員	武藤 和成	科目ナンバリング	GSET1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	スキル科目ではいずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身につけておきたい即戦力の力となるスキルを修得していきます。				
授業のねらい	検定英語のねらいは、英語の大切な技能（聴く、読む、書く、話す）を「聴く」ことを中心に高め、仕事で、生活の中で使える英語を自分のものに高めることです。毎回、実際に使われる英語に耳を通して触れることによって、自然に、楽しく、無理なく英語を運用する力を高めていきます。「自然に、楽しく、無理なく」を大切に、総合的な英語力を獲得しましょう。				
到達目標	各自のスタートラインによって到達目標は設定されます。半年間のスパンでは、スタートラインから2段階以上向上しているでしょう。1年間のスパンでは、4～5段階は向上すると推測されます。「聴く力」の向上は英語力を高める大きな、強いエネルギーになります。 講座の到達目標としては、(TOEICを例にすると) 500点から800点オーバー（実際には昨年度受講者は815点でした）となります。				
授業計画	第1講 講座ガイダンス Unit 1 第2講 Unit 2 ～ 第15講 Unit 15  それぞれの講座で 各Unitを完結させます。				
テキスト・教材（参考文献）	使用予定の教材が改訂中ですので、今後指示、指定をします。				
事前・事後学習	語学のマスターには、日々の生活の中で取り組むことが大切です。生活の中で「これ、英語ではどのように表現するのかなあ」という素朴性を大切に、英語の学習を無理のないように、負担にならないように、学びたいという前向きな気持ちと同調して進めて下さい。				
成績評価方法	日常の努力（出席、学習姿勢）が50点、定期試験が50点、総合100点満点で評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業中に指示をします。その指示に従って下さい。しかし、この講座では、特段の課題提出はありません。ほぼすべて、講座（授業）内で完結します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	特段の課題提出はありません。講座（授業）内で解決、完結します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	これまで20年間（20回）ほどイギリス、オーストラリア、ニュージーランドの学校で、英語でどのように生活し、ビジネスをするのかを学んできました。これらの経験を基本にこの講座は展開します。				
担当者から一言	自分のペースで、自分の目標に向けて、無理なく、楽しく、自然に英語力を向上させましょう。				

授業科目名	検定英語Ⅱ	科目コード	172410	授業コード	411804
担当教員	武藤 和成	科目ナンバリング	GSET1010		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	スキル科目では、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	検定英語のねらいは、生活の場面で、とりわけ会社での仕事の場面で実際に活用できる英語力を楽しく、無理なく、そして自然に身につくように高めることです。具体的には、「聴く」力を育成することを通して、「聴く、読む、書く、話す」力が総合的に身に付くようにしていきます。				
到達目標	受講者個々人のスタート段階を基準にして、半年後には驚くほどの進歩を体感することでしょう。段階としての体感進歩は2段階以上のアップ感ということになると思います。講座としての到達目標は、通常の日常会話にはよく対応でき、仕事での英語では、例えば、外国からのEメール等でのコミュニケーションには問題なく対応ができ、やり取りができるようになることです。数値的に表しますと、例えば、TOEICならば、500点から800点オーバー（815点）が昨年度までにこの講座の受講者が実現してきた到達段階です。各人が自己目標を実現してください。				
授業計画	第1講 ガイダンス 及び テキスト Unit 1 第2講 Unit 2 ~ 第15講 Unit 15				
テキスト・教材（参考文献）	使用予定のテキストが現在改訂中ですので、近日中に明示します。 参考文献として、自分に適した英和辞書、高校生以上を対象とした英文法書（大学受験用でも結構です）を活用下さい。				
事前・事後学習	特に必要ありませんが、語学学習の基本は、「生活の中で学び、身に付ける。」ということになります。日常生活の中で「これは英語だと、どのように表現するのかなあ。」という問題意識を高めて下さい。				
成績評価方法	平常点（出席、学習姿勢）が50点。定期試験が50点。総計100点満点で評価します。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて適宜指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて適宜指示します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	これまで20年間（20回）程、イギリス、ニュージーランド等の学校で、英語をどのように学習し、英語で生活し、ビジネスをするのかという授業に参加してきました。その基本をベースにこの講座は展開します。				
担当者から一言	「習うより慣れよ。」が語学学習の基本です。「楽しく、無理なく、自然に」英語学習を進めることで、実際に使える英語、仕事で役に立つ英語を身に付けましょう。				

授業科目名	メディアツールb	科目コード	172502	授業コード	415606
担当教員	西尾 秀樹	科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。				
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス</li> <li>2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど）</li> <li>3.色調整・サイズ調整</li> <li>4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など）</li> <li>5.選択範囲作成1（画像の切り抜き）</li> <li>6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など）</li> <li>7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小</li> <li>8.ペイント・色変換</li> <li>9.文字入力・加工/フィルター・その他ツール</li> <li>10.デザインの実践1（バナーデザインなど）</li> <li>11.デザインの実践2（illustratorとの連動）</li> <li>12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成）</li> <li>13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用）</li> <li>14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成）</li> <li>15.合評会</li> </ol>				
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。				
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。				
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。				
アクティブラーニング	実習を行います。				
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。				
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。				

授業科目名	メディアツールd		科目コード	172504	授業コード	412604	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。						
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。						
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス・基礎知識</li> <li>2.コンピュータをつかった音楽制作とは</li> <li>3.音楽の基礎</li> <li>4.ループ音源を組み合わせる1※</li> <li>5.ループ音源を組み合わせる2※</li> <li>6.楽譜を音にする1※</li> <li>7.楽譜を音にする2※</li> <li>8.エフェクトとは</li> <li>9.MixDownとは※</li> <li>10.生音の加工1※</li> <li>11.生音の加工2※</li> <li>12.効果音の世界1※</li> <li>13.効果音の世界2※</li> <li>14.音作品制作1※</li> <li>15.音作品制作2※</li> </ol> <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>						
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。 分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>						
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出</p> <p>授業外では、Moodleやメールを利用。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。</p> <p>質問などのフィードバックは適時行う。</p>						
アクティブラーニング	Mac実習						
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有						
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。</p> <p>共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>						

授業科目名	Webデザインb	科目コード	172506	授業コード	411607
担当教員	堀内 敬弘	科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウィルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。				
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。				
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め</p> <p>第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング</p> <p>第3講 ワイヤフレーム制作①</p> <p>第4講 ワイヤフレーム制作②</p> <p>第5講 デザイン制作①</p> <p>第6講 デザイン制作②</p> <p>第7講 デザイン制作③</p> <p>第8講 デザイン制作④</p> <p>第9講 デザイン制作⑤</p> <p>第10講 デザイン制作⑥</p> <p>第11講 デザイン制作⑦</p> <p>第12講 デザイン制作⑧</p> <p>第13講 デザイン制作⑨</p> <p>第14講 プレゼンテーション準備</p> <p>第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	特になし				
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと</li> <li>・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック</li> </ul>				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30%</li> <li>・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼン力、及びクオリティ・理解度：80%</li> <li>・定期試験：定期試験はありません</li> </ul>				
授業内の課題・提出方法	<p>提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ</p> <p>提出方法：講義時にデータにて提出</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック				
アクティブラーニング	Macを用いた演習				
実務経験のある教員	デザイン会社代表				
担当者から一言	<p>Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。</p> <p>Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。</p>				

授業科目名	インターネット論	科目コード	172509	授業コード	413402
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。				
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。				
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります				
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税				
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)				
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%				
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有				
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。				

授業科目名	環境情報学概論 I		科目コード	371001	授業コード	413301	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EFC1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	環境情報学部での学びへの導入を行い、全貌を概観する。 環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、実習・体験を交えて両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身が学修する専攻の選択に導く。選択した専攻ごとに後学期に実施する環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会にもなる。また、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用する。						
到達目標	環境情報学部、特に環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を知るとともに、今後4年間の学生生活で学ぶ場となる専攻を選択する。						
授業計画	第1講 ガイダンス/学部概要/教員紹介(全専任教員) 第2講 里山と竹林保全(牧田、外部講師) 第3講 竹山保全実習(牧田、外部講師) 第4講 アプリ開発/北勢地域の野生動物(片山、野呂) 第5講 スタジオツアー(足立、黒田、前川、柳澤、柳瀬) 第6講 地域農業と環境/光と表現(廣住、黒田) 第7講 上級生の活動報告・スペシャリスト育成プログラム紹介(演習担当教員) 第8講 海洋のプラスチック問題/メディアと情報の融合(大八木、柳澤) 第9講 映像の世界/プランクトンの世界(柳瀬、牧田) 第10講 海生哺乳類/AI深層学習(古山、片山) 第11講 録音シミュレーション/外来生物問題(足立、野呂) 第12講 水環境/専攻選択(大八木、前川) 第13講 講話①/講話②(池田、田中) 第14講 講話③/講話④(千葉、青木) 第15講 講話⑤/講話⑥(樋口、鬼頭) (内容・順序を変更することがあります)						
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください(180分)。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートなどを課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは前川(6号館6418)です。						

授業科目名	四日市公害論		科目コード	371003	授業コード	416501	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	EFC2001			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。</li> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・地域の持続的発展のために貢献できる。</li> </ul>						
授業のねらい	四日市市は、四日市ぜんそくを引き起こした都市環境問題と、その対策と改善について、深く経験してきました。その観点から四日市市は、都市環境学を学ぶうえで、全国的にも象徴的な都市ということが出来ます。本講義では、都市部の環境問題、エネルギー、都市計画など、現代社会における都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修します。						
到達目標	本講義では、環境問題、特に都市環境に関する専門知識や技術を習得するとともに、都市環境問題の社会的課題や特徴について学修していきます。具体的には、現代社会における都市部の大気環境、水環境をはじめ、エネルギーシステム、廃棄物処理など、都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修し、さらに防災やインフラストラクチャーの整備、まちづくりについての理解を深めます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 都市環境とは 第3講 都市の大気と気候 第4講 都市災害 第5講 都市環境のモニタリング 第6講 都市のインフラストラクチャー 第7講 都市のエネルギー供給システム 第8講 都市の水供給システム 第9講 都市の廃棄物処理システム 第10講 都市環境計画とまちづくり 第11講 施設見学1 第12講 施設見学2 第13講 施設見学3 第14講 グループワーク 第15講 まとめ  2024年11～12月の週末（土日）を中心に、四日市市内の公共環境保全施設、環境学習施設での開講を予定しています。基本的に開講場所での現地集合、現地解散となります。開講場所の中には、交通不便地も含まれています。若干の交通費や、あるいは交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2024年11月30日（土）、2024年12月8日（日）、2024年12月15日（日）、2024年12月24日（火）での開講を予定していますが、開講日時、開講場所は変更になる場合がありますので、確定後、2024年10月上旬頃までに、履修登録者に対してMoodleかUNIPAでアナウンスします。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。						
成績評価方法	小テスト 5点×8回 = 40点 レポート課題 20点×3回 = 60点 計100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行います。また、レポート課題については、提出内容について、必要に応じてMoodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、環境保全施設の見学等により、実際に都市環境の維持が行われている現場を間近に体験したり、これらに関するグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、都市環境のマネジメントに関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、都市環境の維持に必要な環境保全施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	環境保全学	科目コード	371203	授業コード	413805
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	ENE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。				
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境改変の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社，2006」、「最新日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社，2019」など				
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。				
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。				
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します				

授業科目名	地域環境論		科目コード	371207	授業コード	415205	
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EEP2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。						
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。						
授業計画	<p>(各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。)</p> <p>第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉</p> <p>第2講 四日市市の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第3講 三重県の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第4講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉</p> <p>第5講 藤前干潟の保全とゴミ問題、(外部講師)</p> <p>第6講 SDGsとESD、(外部講師)</p> <p>第7講 音楽による里山文化の発信、(外部講師)</p> <p>第8講 三重県の地球温暖化対策、(外部講師)</p> <p>第9講 四日市市周辺の自然環境保全、(外部講師)</p> <p>第10講 企業と環境対策(外部講師)</p> <p>第11講 三重県の林業と今後、(外部講師)</p> <p>第12講 北勢地域における地域農業の展開、(外部講師)</p> <p>第13講 吉崎海岸の清掃活動とウミガメ保存、(外部講師)</p> <p>第14講 伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、(外部講師)</p> <p>第15講 伊勢湾の水質環境、千葉</p>						
テキスト・教材(参考文献)	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性(自分の生活とどのように関わっているか)を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点(優秀レポートには加点)して成績評価する。遅刻者は減点する。期末試験はない。						
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様には感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。						

授業科目名	環境エネルギー論		科目コード	371208	授業コード	416101	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	ENE3001			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。</li> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・地域の持続的発展のために貢献できる。</li> </ul>						
授業のねらい	現代の生活になくしてはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値について理解を深めます。また、カーボンニュートラルを目指す中で、利用拡大が求められている再生可能エネルギーも、その学修範囲に含めます。最終的に、将来の日本が、どのような電源で構成することが望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。						
到達目標	環境問題、エネルギー問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな持続的発展のための社会的課題について、理解を深めます。具体的には、火力、原子力といった従来型エネルギーだけでなく、再生可能エネルギーをはじめとする新エネルギーも含めて、これらのエネルギーの歴史的背景、エネルギー技術の原理、またこれらにエネルギー利用に伴う環境問題について、学修します。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス・エネルギーとは</p> <p>第2講 エネルギーの基礎</p> <p>第3講 エネルギーの歴史</p> <p>第4講 火力発電1</p> <p>第5講 火力発電2</p> <p>第6講 原子力発電1</p> <p>第7講 原子力発電2</p> <p>第8講 再生可能エネルギー1</p> <p>第9講 再生可能エネルギー2</p> <p>第10講 施設見学1</p> <p>第11講 施設見学2</p> <p>第12講 施設見学3</p> <p>第13講 施設見学4</p> <p>第14講 グループワーク</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>2024年6月の週末（土日）に、四日市市、川越町の環境学習施設、エネルギー施設での開講を予定しています。基本的に開講場所での現地集合、現地解散となります。開講場所の中には、交通不便地も含まれています。若干の交通費やあるいは交通手段が必要になる場合があります。</p> <p>現時点では、2024年6月15日（土）、2024年6月22日（日）、2024年6月23日（日）の3日間を予定していますが、開講日時、開講場所は、履修登録人数等によって変更になる場合がありますので、確定後、2024年4月下旬に履修登録者に対して、MoodleかUNIPAでアナウンスします。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。						
成績評価方法	<p>小テスト</p> <p>5点×8回 = 40点</p> <p>レポート課題</p> <p>20点×3回 = 60点</p> <p>計100点</p>						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行います。また、レポート課題については、提出内容について、Moodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、エネルギー施設の見学等により、実際に発電が行われている現場を間近に体験することに加え、これらに関するグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、石油代替エネルギー開発に関する研究の実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、減多に見ることのできないエネルギー施設の見学などを通じて、大学講義だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと考えています。						

授業科目名	資源循環論		科目コード	371209	授業コード	411504	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	ENE3002			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。</li> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・地域の持続的発展のために貢献できる。</li> </ul>						
授業のねらい	我々の生活に不可欠な資材やエネルギーの基盤となる多様な資源について、その獲得・品質・加工・貯蔵・利用・廃棄・自然界での循環とそれらに関わる諸問題を、ローカルレベル（自身の生活圏）から、グローバルレベルに至るまで、さまざまな視点で学びます。						
到達目標	環境問題、特に廃棄物問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな持続的発展のための社会的課題について、学修します。具体的には、我々の生活・社会を支えている資源とその品質について学修し、資源の獲得・加工・貯蔵・利用・再生・廃棄という一連の流れと付随する問題、ひいては、資源利用と物質循環が関わる社会的課題について、理解します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 廃棄物処理の歴史 第3講 3Rとは 第4講 廃棄物の減量 第5講 資源循環 1 第6講 資源循環 2 第7講 資源循環 3 第8講 廃棄物の区分 第9講 一般廃棄物 第10講 廃棄物の処理 1 第11講 廃棄物の処理 2 第12講 廃棄物の処理 3 第13講 特殊な廃棄物の処理 第14講 廃棄物処理・資源循環に係る法規 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	(1) 各回の講義後の小テスト 5点×15回 = 75点 (2) レポート課題 25点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等については、Moodleやメールにて、いつでも受け付けます。						
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleで紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。						
実務経験のある教員	担当教員には、廃棄物規制に関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義はオンライン方式ですので、講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行います。くれぐれも見落としのないように注意してください。また、オンライン方式の講義は、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。						

授業科目名	コンピュータ音楽論		科目コード	371311	授業コード	412208	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EMS3003			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	コンピュータ音楽の歴史や技術面の理解、コンピュータによる作品制作時において、オリジナルの音を創作し、音作品や映像作品に行かせる知識と技術について座学と実習で学ぶ。						
到達目標	コンピュータを利用した音楽制作の歴史、作品制作のための技術や技法を、作品鑑賞や座学と実習の中で理解し、自分の音楽作品や映像作品等に活かせる、シンセサイザー音のeditや、録音素材の加工技術を習得することを旨とする。						
授業計画	<p>・講義ではMac(Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス・基礎知識</li> <li>2.デジタル信号処理・メディアの変容</li> <li>3.エフェクターの知識※</li> <li>4.音の創作1※</li> <li>5.音の創作2※</li> <li>6.効果音創作1※</li> <li>7.効果音創作2※</li> <li>8.サンプリング・音の加工1※</li> <li>9.サンプリング・音の加工2※</li> <li>10.Vocalの録音と処理2※</li> <li>11.曲をつくるには※</li> <li>12.楽曲制作1※</li> <li>13.楽曲制作2※</li> <li>14.作品制作※</li> <li>15.講評・まとめ</li> </ol> <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	※必ずUSBメモリーや外付けSSD等を用意する事。(16GB以上 USB3.0規格推奨) テキストは適時配布。						
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Macのある教室(5201)が空いている時に、授業時間内にできなかった課題を進めたり、操作予習をしてMacの操作を理解しておくこと(90分) 日ごろから音楽に触れておくことで実習の際のアイデアを作っておくこと(90分)						
成績評価方法	受講態度30%(授業中の課題状況、受講態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業時間外は、Moodleやメールにて提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なもので、当日中に講評できるものは当日授業中に講評。 基本的には翌週に講評を行う。 質問などのフィードバックはその都度行う。						
アクティブラーニング	Macを使った制作実習を行います。						
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有						
担当者から一言	<p>本講義で応用的なサウンドメイクを学び、製作作品にさらなるオリジナリティを与えられるようになりましょう。 メディアツールD受講後の履修が一番スムーズな理解に繋がります。 共に音を学びましょう。</p> <p>※20名の受講制限あり。初回授業で抽選をするので欠席・遅刻をしないように</p>						

授業科目名	表現と思想	科目コード	371315	授業コード	414107
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	<p>プロが撮影や取材現場で使用するカメラを使ったロケや、グループを作って企画・録音・編集を自分たちの手で行うラジオCM。</p> <p>また静止画と文章を組み合わせるストーリーを構成する授業などを行います。</p> <p>特に制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を多く設け、「つくる」だけでなくメディアに必要な「伝える」ことの大切さを体験して身につけることを狙いとします。</p>				
到達目標	<p>プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。</p>				
授業計画	<p>第1講：ガイダンス ～クリエイティビティとは何か～</p> <p>第2講：ポートレート① 自分自身</p> <p>第3講：ポートレート② なりきり</p> <p>第4講：ポートレート③ プレゼンテーション</p> <p>第5講：フォトエッセイ① 制作</p> <p>第6講：フォトエッセイ② 制作</p> <p>第7講：フォトエッセイ③ プレゼンテーション</p> <p>第8講：撮影実習 カメラの基本操作①</p> <p>第9講：撮影実習 カメラの基本操作②</p> <p>第10講：シナハン・ロケハン</p> <p>第12講：脚本制作</p> <p>第13講：撮影①</p> <p>第14講：撮影②</p> <p>第15講：プレビュー&amp;まとめ</p> <p>※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。				
事前・事後学習	<p>制作だけでなく、授業以外にも自ら継続的に創作活動を行う意識を持ってください。</p> <p>日々様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、舞台、テレビ番組、小説、配信番組、ライブコンサートなど、スキルアップにつながる行動をどん欲に行う習慣を身につけてください。</p>				
成績評価方法	<p>授業・課題への取り組む姿勢 30%</p> <p>課題制作への意欲・参加度 30%</p> <p>作品内容・完成度 20%</p> <p>試験に代わる課題、もしくはレポート 20%</p>				
授業内の課題・提出方法	教員に直接手渡し。もしくはメール、教学課提出BOXなど、適切な方法を指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	採点し必要に応じて返却します。				
アクティブラーニング	映像作品の制作に関する基礎基本的な静止画の撮影、文章表現、機材を用いての撮影体験やシミュレーションを行います。				
実務経験のある教員	中京テレビをはじめ、在名各テレビ局で番組制作の経験あり。現在も現役として企画から完パケまでを手掛けている。				
担当者から一言	普段から多種多様な作品に触れたり、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。				

授業科目名	映像概論	科目コード	371316	授業コード	414203
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて映像のリアルを学びます。				
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが張れるようになる。 ②授業を通じて一通りの映像制作のノウハウを学び、知識とスキル向上させる				
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画を鑑賞～ 第3講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画の感想～ 第4講 映像作品ができるまで ～企画・制作・編集・OA～ 第5講 映像技術 ～前川先生による講義・映像を実現するテクノロジー～ 第6講 企画書・企画会議とは 第7講 現場取材・インタビューのノウハウ 第8講 台本・脚本の作り方 第9講 作品鑑賞①（サイレント映画） 第10講 作品鑑賞②（1980年代のテレビ番組） 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか ～賛否両論ディベート大会～ 第13講 ドキュメンタリー論 第14講 カメラ体験（撮影のノウハウ） 第15講 映像ビブリアバトル ※授業の進捗状況により、内容の変更や入れ替えがあります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキストや資料を配布				
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。見ることすなわち学習です。さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換する練習を積んでください。とにかく、よく見てよく読む。これが映像制作の事前・事後学習です。				
成績評価方法	授業取り組む姿勢：30%（出席率や授業態度など） 課題への取り組み：30%（内容のクオリティー、締め切り順守） 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、教学課の提出用レターケース、MOODLEのなかで最も効率よく提出できる方法を課題ごとに選択します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション・ディベート・フィールドワークなど、概論として座学の中に人前で発表する時間も設けます				
実務経験のある教員	テレビ番組のディレクターとして35年の経験。現在も名古屋の民放で現役としてスポーツ中心に取材をしている。現場で培ったノウハウを中心に授業を行います。				
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。				

授業科目名	照明概論	科目コード	371317	授業コード	416102
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	音響と照明に関する基礎技術を「集中講義」で身につけます。機材の取り扱いから始まり、プロの制作現場に必要な技術を実践的に学びます。ライブコンサートにおける音響や照明技術を学びたい学生にとっては必須の講義であり、後学期に開講の「音響照明概論」と併せて受講することをお勧めします。 ※ 本講義は「音響照明概論」の後に履修することが望ましい。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>音響と照明の機材を適切に取り扱うことができる。</li> <li>ライブコンサートに必要な技術を身につける。</li> <li>コンサートの完成に向けて、仲間と協力しながら建設的な取り組みができる。</li> </ul>				
授業計画	<p>&lt;1日目 7月20日(土) 予定&gt;</p> <p>第1講 照明1「機材の説明」 第2講 照明2「仕込み図面の読み方～セッティング」 第3講 照明3「セッティング～フォーカス」 第4講 照明4「フォーカス～プログラミング」 第5講 照明5「プログラミング」</p> <p>&lt;2日目 7月21日(日) 予定&gt;</p> <p>第6講 音響1「音響仕込み図の読み方」 第7講 音響2「出力系(スピーカー等)のセッティング」 第8講 音響3「入力系(マイク等)のセッティング」 第9講 音響4「ミキサーの設定」 第10講 音響5「スピーカーの音質調整」</p> <p>&lt;3日目 8月3日(土) 予定&gt;</p> <p>第11講 調整1 第12講 調整2 第13講 調整3 リハーサル 第14講 本番 第15講 まとめ</p>				
テキスト・教材(参考文献)	なし。(必要に応じてプリントを配布します)				
事前・事後学習	予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること(90分) 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと(90分)				
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニツツペーパーを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、実習				
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。				
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修定員を設けるため、受講希望人数が多い場合は抽選を行います。</li> <li>本講義は3日間の「集中講義」であるため、遅刻や欠席が、評価に大きく影響します。</li> <li>怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。</li> </ul>				

授業科目名	音響概論	科目コード	371318	授業コード	414703
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>				
授業のねらい	音響と照明に関する、それぞれの基礎知識を「オンデマンド授業」で講義します。光と音の性質を知ることから始まり、演出方法や理論、メカニズムやシステムに関する内容を扱います。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとってこの講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。2年前期開講の「音響照明技術」とあわせて履修することを推奨します。※「音響照明技術」より前に履修することが望ましいです。				
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識や、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気的基础」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「3点照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。必要に応じてMoodleで資料をシェアします。				
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。				
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回の授業時に小テストか小レポートをMoodleで実施します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説はMoodleやオンデマンド動画内で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	小レポート、小テスト				
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎知識や理論をわかりやすく指導します。				
担当者から一言	課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。				

授業科目名	クリエイティブワークⅡ	科目コード	371320	授業コード	413408
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	制作実習を軸とする授業で、映像作品制作を中心に学びます。 講義、演習、実習、編集、プレゼンテーションを通じて、2年次よりもさらにレベルアップした表現方法や知識、技術を習得を目指します。 作品制作を体験することで、様々なものづくりやクリエイティブの本質に触れ「何を表現し、どのように個性を出すか」など、クリエイターとしての知識や感性を磨き上げていきます。				
到達目標	クリエイティブワークにおける三大要素「映像」「音声」「照明」の各分野を、作品制作の経験を通して特性を理解し、身につけることを目標とします。 また第三者が見て「納得」と「満足」のいく作品を作り上げられる人材となることを目指します。				
授業計画	第1講 ガイダンス ～実践的クリエイティブワークとは～ 第2講 作品制作に向けて企画書作成 第3講 作品制作に向けて企画書作成&プレゼンテーション 第4講 構成案づくり 第5講 シナハン・ロケハン 第6講 構成案づくり 第7講 撮影実習 第8講 撮影実習 第9講 撮影実習 第10講 撮影実習 第11講 撮影実習・編集作業 第12講 編集作業 第13講 MA・ナレーション収録 第14講 MA・ナレーション収録 第15講 合評 ※授業の進捗状況により、内容の入れ替えや変更があります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト・資料等を配布します。				
事前・事後学習	作品制作の成功の可否は、事前準備や情報収集によるところ大です。 毎日の生活の中に、映像を見る、本を読む、新聞に目を通す、様々な音楽を聴く、舞台を鑑賞するなど、日常生活とクリエイティブが密接な関係を持っていることが大切です。 感性を磨き、一般的な科目の予習復習とは違う、生活レベルでの事前事後学習を心がけてください				
成績評価方法	授業への取り組み：40% 課題への取り組み：40% 試験に代わる課題レポート：20%				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて、授業内で課題を出します。 提出は担当教員への手渡し、MOODLE、教学課提出BOXなど				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	評価、採点し成績に反映、もしくは返却				
アクティブラーニング	企画書・脚本作成、撮影・編集・MA等実習を通して学びます。				
実務経験のある教員	在名各テレビ局での制作キャリアと、現在も現役として番組制作に携わっています。				
担当者から一言	映像・音響・照明のクリエイティブ3大要素を学びます。 その中で作る楽しさ、大変さ、完成させる喜びを体験してほしいと思います。 共同制作が多くなるので、遅刻・欠席はできません。 「クリエイティブワークⅠ」を受講していることが望ましいです。				

授業科目名	イベント制作演習		科目コード	371322	授業コード	415502	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	ESP3004			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>						
授業のねらい	この講義のターゲットは、メディア情報分野の4年生が卒業研究・制作を発表する卒業展を制作することです。その中で、イベントの制作に関する知識や技術、取り組む姿勢を身につけてもらうことを目的としています。演習の前半には、イベント制作に関する座学を行い、イベント企画の演習を行います。後半には、全員で共同して卒業展を制作します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。</li> <li>・満足度の高いイベントなるようチームで考え、実現に向けた自発的行動ができる。</li> <li>・プロジェクトの全体像を十分に把握し、課題を発見することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1講 ガイダンス～昨年度実績伝達 第2講 卒業展について1（企画立案） 第3講 卒業展について2（資料制作） 第4講 卒業展について3（ディスカッション） 第5講 担当部署ごとの役割について 第6講 部門ごとの準備1（グループワーク） 第7講 部門ごとの準備2（グループワーク） 第8講 部門ごとの準備3（グループワーク） 第9講 部門ごとの準備4（グループワーク） 第10講 部門ごとの準備5（グループワーク） 第11講 システム構築1 第12講 システム構築2 第13講 テクニカルリハーサル 第14講 最終リハーサル（実習） 第15講 卒業展（実習）						
テキスト・教材（参考文献）	講義中に資料やワークシートを配布します。配布資料が多いため、専用のファイルを準備してください。						
事前・事後学習	年末年始の休暇期間を含め、プランニングや資料作成、連絡調整等が持ち帰り課題となります（180分程度）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席や遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	本講義のほとんどは、課題に向けて取り組む制作です。取り組んだ課題は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題は、講義内の発表時に講評を行います。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、実習						
実務経験のある教員	イベント業界、メディア業界で20年以上の経験を積んだ専門家です。自らの力でイベントを企画・制作するための技術とノウハウを提供、指導します。						
担当者から一言	卒業展当日までグループワークで制作を進めていきますので、特別な理由以外では講義を休まないで下さい。また、本講義は、スマートフォンを利用する機会が多々ありますが、必要な作業以外での使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	プログラミング		科目コード	371324	授業コード	412110	
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIF2002			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	プログラミングにはさまざまな手法や言語があるが、その中でも幅広く使用されている言語のPythonを例にプログラミングの基本を学ぶ。本来、プログラミングとは情報技術の中の一つの手段であるため、プログラミングを行うことにより達成した目的があるものである。どういった目的に対してプログラミングという手段が有効であるかを理解し、目的を達成する技術としてプログラミングを学ぶ。						
到達目標	プログラミングとはどういうものかを理解し、基本的なプログラミングができるようになること。						
授業計画	第1講 ガイダンス～プログラミング言語Pythonでできる事～実習環境について 第2講 変数宣言・画面出力・変数の型・数値計算について 第3講 データ構造(リスト・タプル・辞書)について 第4講 制御フロー1(コメント・if文・比較演算子・論理演算子) 第5講 制御フロー2(for/while/continue/break) 第6講 関数(関数定義・引数・戻り値・デフォルト引数) 第7講 クラス・オブジェクト1(オブジェクト思考の概念について) 第8講 クラス・オブジェクト2(クラス定義・クラス変数・コンストラクタ・スコープについて) 第9講 組み込み関数1(print/input/formatなど) 第10講 組み込み関数2(型変換/数値計算など) 第11講 ライブラリの利用1(パッケージ/モジュールの概念について) 第12講 ライブラリの利用2(ファイル操作など) 第13講 ライブラリの利用2(エクセルの操作など) 第14講 ライブラリの利用2(データベースの操作など) 第15講 まとめ～プログラミング技術を使った課題の解決方法について ※受講生の理解度や授業の進捗によって、講義範囲は増減する可能性があります。						
テキスト・教材(参考文献)	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021)						
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。 実習環境はWebブラウザを使用してプログラミング及びその実行を行う事ができる、Google社のColaboratoryというサービスを利用します。 各自、初回の講義の前に、Googleアカウントを作成の上ログイン情報を忘れずにメモしておくこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。						
成績評価方法	「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)						
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、教育支援システム(Moodle)に提出する形とする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。						
アクティブラーニング	実習						
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。						
担当者から一言	プログラミング未経験者は、プログラミングと聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、プログラミングは難しくありません。 理系も文系も関係なく、誰でもプログラミングはできますので、先入観のみで避けて通らない事を願います。 ※実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。						

授業科目名	データベースプログラミング	科目コード	371327	授業コード	412509
担当教員	足立 明信	科目ナンバリング	EIF3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	実際のデータベース管理システム (DBMS) に触れることによって、データベースのしくみを理解する。具体的には、リレーショナルデータベース (RDBMS) のひとつであるSQLiteを使用し、表の設計、データの挿入と検索を通して、データベースのしくみを理解する。				
到達目標	検索条件をSQL文で書けること。 データの正規化ができること。 データの追加、更新、削除を理解すること。 データベースの基本設計ができること。				
授業計画	第1講 ガイダンス～データベースとは 第2講 さまざまなデータの保存形式 第3講 データベースを操作する言語 第4講 データベースの操作1 第5講 データベースの操作2 第6講 データベースの操作3 第7講 データベースの操作4 第8講 データベースの操作5 第9講 データベースの操作6 第10講 データベースの操作7 第11講 データベースの操作8 第12講 ER図 第13講 正規化1 第14講 正規化2 第15講 まとめと演習課題				
テキスト・教材 (参考文献)	坂上 幸大 著「図解まるわかり データベースのしくみ」翔泳社(2021)				
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。				
成績評価方法	「提出物」 (40%)、「定期試験」 (60%)				
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、教育支援システム (Moodle) に提出する形とする。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。				
アクティブラーニング	実習				
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。				
担当者から一言	実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。				

授業科目名	情報システム論	科目コード	371328	授業コード	411810
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	EIF3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	Microsoft Accessは、リレーショナル型のデータベース・ソフトウェアであり、実社会では大規模なデータベースを作成するために使われています。したがって、社会で活躍するためには、Accessを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Accessの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習・実習を行います。				
到達目標	MOS Access の資格試験の準備が整うようにします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 データベースの作成と管理（1） 第3講 データベースの作成と管理（2） 第4講 データベースの作成と管理（3） 第5講 テーブルの作成（1） 第6講 テーブルの作成（2） 第7講 テーブルの作成（3） 第8講 クエリの作成（1） 第9講 クエリの作成（2） 第10講 フォームの作成（1） 第11講 フォームの作成（2） 第12講 レポートの作成（1） 第13講 レポートの作成（2） 第14講 模擬試験演習（1） 第15講 模擬試験演習（2）				
テキスト・教材（参考文献）	「Microsoft Office Specialist Microsoft Access 2019 Expert 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）」FOM出版 ￥3,024				
事前・事後学習	講義前には、教科書の該当部分を読んで、操作を理解しておくこと（90分）講義後には、講義で学習した操作を復習して、教科書付属の模擬試験や章末問題を行っておくこと（90分）				
成績評価方法	毎回の課題（60%）、模擬試験（40%）				
授業内の課題・提出方法	課題は、Moodleの課題提出を使用します。毎回、提出があります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて採点結果などをフィードバックします。				
アクティブラーニング	実習課題の提出				
実務経験のある教員					
担当者から一言	積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。 「データベースプログラミング」と併せて受講することをすすめます。				

実務経験のある教員による授業科目(環境情報学科2023年度以降入学生)

区分	2023年度以降入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	備 考		
			1年次		2年次		3年次		4年次							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
全 学 共 通 科 目	「人間たれ」I	②	○									兼	鬼頭 浩文 他	1		
	「人間たれ」II	②		○								兼	小林 慶太郎 他	2		
	四日市学	②			○							兼	岡 良浩 他	3		
	社会福祉概論	2		○								兼	松本 彩月	25		
	地学概論	2	○									非	森 康則	34	オンデマンド	
	キャリア基礎b	②				○						兼	三田 泰雅 他	40		
	ビジネスマナー	2				○						非	長野 ゆき子	41		
	インターンシップa	2				▲							兼	鬼頭 浩文	42	
												兼	岡 良浩			
	ITリテラシー	2	○											柳澤 翔士	47	
Webプログラミング2	2			○									柳澤 翔士	49		
国際協力研修	2		▲								兼	岩崎 祐子	76			
学 部 専 門 科 目	環境情報学概論 I	②	○											前川 智雄	78	
	環境保全学	②				○								野呂 達哉	94	
	野生動物学	2				○								野呂 達哉	98	
	都市環境学	2				○						非	森 康則	104		
	地域社会と環境	2			○									野呂 達哉	107	
	地域連携環境講義	2	○											千葉 賢	108	
	地域社会とメディア情報	2				○								黒田 淳哉	119	
														柳瀬 元志		
	映像概論	2	○											柳瀬 元志	126	
	音響照明概論	2		○										足立 明信	127	オンデマンド
														黒田 淳哉		
	プログラミング実習応用1	2			○									足立 明信	130	
	グラフィックツール2	2		○								非	西尾 秀樹	133		
	Webデザイン	2				○						非	堀内 敬弘	134		
	音響照明技術	2				○								足立 明信	137	
													黒田 淳哉			
電子音楽ツール	2				○								柳澤 翔士	138		
作品制作	2			○									柳瀬 元志	139		

授業科目名	「人間たれ」Ⅰ		科目コード	181001	授業コード	425101	
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEFC1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力</p> <p>向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢</p> <p>自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力</p> <p>地域の持続的発展のために貢献できる力</p>						
授業のねらい	<p>本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。</p>						
到達目標	<p>本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」</p> <p>第2講 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～</p> <p>第3講 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～</p> <p>第4講 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～</p> <p>第5講 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所の運営経験（齋藤）</p> <p>第6講 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が全壊（北村）</p> <p>第7講 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難生活（雁部）</p> <p>第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館</p> <p>第10講 教員が語る「人間たれ」①（足立）</p> <p>第11講 教員が語る「人間たれ」②（大八木）</p> <p>第12講 教員が語る「人間たれ」③（黒田）</p> <p>第13講 教員が語る「人間たれ」④（樋口）</p> <p>第14講 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬）</p> <p>第15講 教員が語る「人間たれ」⑥（青木）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。						
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す						
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成						
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ		科目コード	181002	授業コード	425501	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	GEFC1002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力</p> <p>向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢</p> <p>自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力</p> <p>地域の持続的発展のために貢献できる力</p>						
授業のねらい	<p>前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。</p>						
到達目標	<p>本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。</p>						
授業計画	<p>第1講(9/27) ガイダンス 「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて(小林)</p> <p>第2講(10/4) 教員のライフヒストリーと「人間たれ」①(岩崎)</p> <p>第3講(10/11) ダイバーシティと「人間たれ」(小林)</p> <p>第4講(10/18) 日本の財政状況と税金、家計、金融知識(財務省 津財務事務所)</p> <p>第5講(10/25) 教員のライフヒストリーと「人間たれ」②(小林)</p> <p>第6講(11/1) 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①(本学2期生 原田さん(津市職員))</p> <p>第7講(11/8) 教員のライフヒストリーと「人間たれ」③(三田)</p> <p>第8講(11/15) 教員のライフヒストリーと「人間たれ」④(浅井)</p> <p>第9講(11/22) 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤(倉田)</p> <p>第10講(11/29) 世界エイズデーを前に生と性について考えよう(小林)</p> <p>第11講(12/6) 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②(ラマ・カンチャさん)</p> <p>第12講(12/13) 外国で働くということ(オイスカ)</p> <p>第13講(12/20) 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑥(永井)</p> <p>第14講(1/10) 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑦(フェーハーリ)</p> <p>第15講(1/17) 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について(小林)</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材(参考文献)	<p>できるだけレジュメや資料を配布する。</p>						
事前・事後学習	<p>大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。</p>						
成績評価方法	<p>毎回提出の小レポート(60%)と、期末試験(レポート)の成績(40%)により評価する。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。</p>						
アクティブラーニング	<p>毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。</p>						
実務経験のある教員	<p>学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。</p>						
担当者から一言	<p>私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。</p>						

授業科目名	四日市学	科目コード	181003	授業コード	425201
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GEFC1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力				
授業のねらい	<p>この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境などを理解し多面的に四日市について考える機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。</p> <p>これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただ</p>				
到達目標	<p>講義は10回にわたる様々なテーマの座学と2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「四日市」を多面的に理解すること</li> <li>2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること</li> <li>3. 地域の課題を発見して考察を行うこと</li> <li>4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること</li> </ol>				
授業計画	<p>第1講(4/05) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡・鬼頭)  第2講(4/12) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]; 四日市公害と環境未来館)  第3講(4/19) 「四日市の産業」(岡[司会]; 四日市市商工農水部)  第4講(4/26) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義])  第5講(5/10) 「四日市の歴史」(永井[司会]; 四日市市博物館学芸員)  第6講(5/17) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]; 四日市市多文化共生推進室)  第7講(5/24) 「四日市の食」(小林[司会・講義]; とんてき協会関連)  第8講(5/31) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]; 四日市市都市整備部)  第9講(6/07) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]; 四日市市文化課)  第10講(6/14) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]; 四日市市シティプロモーション部)</p> <p>* 講師都合によっては、内容が変更になることがあります。</p> <p>(フィールドワーク)  第11~12講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」  講義期間中に、博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。  第13~15講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」  講義期間中に、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。				
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。				
成績評価方法	成績評価は、1~10週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度(50%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(20%)で総合評価します。				
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	社会福祉概論		科目コード	181204	授業コード	421604	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GELA1004			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11版』ミネルヴァ書房（2019年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、グループワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方をすることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	地学概論		科目コード	181402	授業コード	421101	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	GELN1002			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある地学的事象の事例を交えながら学んでいきます。						
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。						
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 温泉 1 第15講 温泉 2						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）レポート課題 25点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等があれば、Moodleやメールにていつでも受け付けます。						
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。						
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。						
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。						

授業科目名	キャリア基礎 b	科目コード	181502	授業コード	421701
担当教員	三田 泰雅	科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。				
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる				
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①働くとは 3 労働②さまざまな働き方 4 労働③日本の働き方 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③日本をとりまく世界の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて				
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。				
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）				
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。				
アクティブラーニング	小レポート グループワーク				
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。				
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。				

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	181601	授業コード	425601	
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GECC1004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	<p>本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていけばよいかを学びます。そのうえで、一般的なビジネスマナーの知識・考え方・所作を学びます。</p> <p>表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手部と言った非言語コミュニケーションも含まれます。この応用としてビジネスマナーがあります。</p> <p>職場内やお客様との間での様々なシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。</p>						
到達目標	<p>社会人としてビジネスマナーの基本を身に付けており、社会生活の中のさまざまなシーンで実践できることです。まずは、相手との関係性において適切な自己表現ができることが目標です。</p> <p>①人間関係づくりの考え方を学ぶこと。  ②一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。  ③ビジネスシーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。</p>						
授業計画	<p>① 9/27 ガイダンス・人間関係作り① 価値交流  ② 10/4 人間関係作り② コミュニケーションとは  ③ 10/11 人間関係作り③ パフォーマンス学  ④ 10/18 人間関係作り④ 話し方・聞き方  ⑤ 10/25 人間関係作り⑤ 聞き方・考え方  ⑥ 11/1 一般的なマナー① 敬語①  ⑦ 11/8 一般的なマナー② 敬語②  ⑧ 11/15 一般的なマナー③ 表情・声・身体表現①  ⑨ 11/22 一般的なマナー④ 表情・声・身体表現②  ⑩ 11/29 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相  ⑪ 12/6 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー  ⑫ 12/13 ビジネスマナー③ 一般文書トビジネス文書（メール・封筒・ハガキの書き方）  ⑬ 12/20 ビジネスマナー④ プレゼンテーション（原稿作成・言語非言語表現）  ⑭ 1/10 ビジネスマナー⑤ クレーム対応（場面に応じた対応）  ⑮ 1/17 総まとめ  定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。						
事前・事後学習	<p>予習：授業中に宿題内容を指示します。  次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習してきます。  次回講義内容に関係した課題を調べてきます。</p> <p>復習：毎回の講義で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をしてきます。</p>						
成績評価方法	<p>定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。  小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。  解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。  小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に、今回の講義内容の重要点をおさらいした後、小テストを実施します。  丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>授業の初めに、前回授業内容の重要点事項・小テスト内容のポイントなどの振り返り授業を行います。学生を指名して解答して頂いただき、理解度を計ることをしたり、グループディスカッションを通じて定着度を確認するときもあります。</p>						
アクティブラーニング	<p>毎回の講義内容により学習の形態を変えます。  コメントシート、ミニツッパパー。  ディスカッション発表。  プレゼンテーション原稿を作詞して実技発表。  グループワーク。ペアワーク発表。</p>						
実務経験のある教員	民間企業勤務。企業研修講師。						
担当者から一言	外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。						

授業科目名	インターンシップ a	科目コード	181603	授業コード	426103
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩	科目ナンバリング	GECC1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること				
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。				
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 4月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布 4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表 5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表 6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 8～9月：インターンシップ 10月：事後面談・・・レポート提出 11月以降：単位認定 *春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。				
テキスト・教材（参考文献）	とくになし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。				

授業科目名	ITリテラシー		科目コード	181801	授業コード	423403	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GEC11001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税						
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。						

授業科目名	Webプログラミング2		科目コード	181803	授業コード	424301
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GEC11004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	Webの仕組みとプログラミングを学びます。Webプログラミング1で学んだことをもとに、より実践的な内容を学ぶ事でWebデザイン技能検定3級レベルの技術・知識を学ぶ。					
到達目標	自分でHTMLを書くことができる技術・知識の習得と、Webに関わる総合的な知識を習得することでWebデザイン技能検定3級レベルの能力を得ること。					
授業計画	<p>全て実習を含みます</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基礎知識</li> <li>2. Webサイトの概要</li> <li>3. HTML①</li> <li>4. HTML②</li> <li>5. HTML③</li> <li>6. CSS①</li> <li>7. CSS②</li> <li>8. CSS③</li> <li>9. サイトの設計と制作①</li> <li>10. サイトの設計と制作②</li> <li>11. サイトの設計と制作③</li> <li>12. サイトの設計と制作④</li> <li>13. 模擬試験①</li> <li>14. 模擬試験②</li> <li>15. 模擬試験③・まとめ</li> </ol> <p>定期試験</p> <p>※学習状況により内容はその都度変更する場合があります※</p>					
テキスト・教材（参考文献）	<p>[テキスト] 特定非営利活動法人インターネットスキル認定普及協会 「改訂版 ウェブデザイン技能検定 3級 過去問題集 (よくわかるマスター)」 富士通ラーニングメディア(FOM出版)</p> <p>※テキストは変更の可能性があります。変更時は掲示をしますので掲示板をチェックしてください※</p> <p>[参考図書] 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 &amp; CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社</p>					
事前・事後学習	<p>講義前にテキスト・配布資料を読んだり整理することで理解を深める事(60分)</p> <p>講義後に授業の内容を再確認し、理解を深めること(120分)</p>					
成績評価方法	<p>レポート・授業課題等の受講態度(50%)</p> <p>定期試験(50%)</p>					
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーフォルダを使用する場合と、Moodleやメールを使う場合があります。(その都度指定)</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>当日中、あるいは翌週に行う。</p>					
アクティブラーニング	<p>PC実習</p>					
実務経験のある教員	<p>Webサイト制作業務経験あり</p>					
担当者から一言	<p>Webプログラミング1で得た知識が重要になります。もう一度Webに関わる基礎から復習を行い、より実践的な知識・技術を身につけましょう。出席状況が悪い場合は減点を行います。課題提出がされない場合大きく減点するので課題は必ず出しましょう。</p>					

授業科目名	国際協力研修		科目コード	182208	授業コード	426502	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GESC1008			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	<p>青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。</p> <p>海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。</p>						
到達目標	<p>1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。</p> <p>2 国際感覚を身に付けます。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  第2講 事前研修  第3講 事前研修  第4講 海外現地研修  第5講 海外現地研修  第6講 海外現地研修  第7講 海外現地研修  第8講 海外現地研修  第9講 海外現地研修  第10講 海外現地研修  第11講 海外現地研修  第12講 海外現地研修  第13講 海外現地研修  第14講 海外現地研修  第15講 海外研修の振り返り</p> <p>※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。  ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>（大学の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。</p> <p>（大学外の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページで、研修先の国の情報を調べてください。</p>						
事前・事後学習	<p>事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分）</p> <p>事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）</p>						
成績評価方法	<p>四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50％）活動日誌・レポート（50％）</p> <p>大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50％）レポート（50％）</p> <p>※評価（単位）は、次年度前学期につきます。</p>						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
アクティブラーニング	海外で、国際協力活動、フィールドワークに参加します。						
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国際経済を研究対象としています。						
担当者から一言	<p>2025年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。</p> <p>※研修には研修参加費が必要です。</p> <p>※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。</p>						

授業科目名	環境情報学概論 I		科目コード	381001	授業コード	423301	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIFC2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	環境情報学部での学びへの導入を行い、全貌を概観する。 環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、実習・体験を交えて両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身が学修する専攻の選択に導く。選択した専攻ごとに後学期に実施する環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会にもなる。また、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用する。						
到達目標	環境情報学部、特に環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を知るとともに、今後4年間の学生生活で学ぶ場となる専攻を選択する。						
授業計画	第1講 ガイダンス/学部概要/教員紹介(全専任教員) 第2講 里山と竹林保全(牧田、外部講師) 第3講 竹山保全実習(牧田、外部講師) 第4講 アプリ開発/北勢地域の野生動物(片山、野呂) 第5講 スタジオツアー(足立、黒田、前川、柳澤、柳瀬) 第6講 地域農業と環境/光と表現(廣住、黒田) 第7講 上級生の活動報告・スペシャリスト育成プログラム紹介(演習担当教員) 第8講 海洋のプラスチック問題/メディアと情報の融合(大八木、柳澤) 第9講 映像の世界/プランクトンの世界(柳瀬、牧田) 第10講 海生哺乳類/AI深層学習(古山、片山) 第11講 録音シミュレーション/外来生物問題(足立、野呂) 第12講 水環境/専攻選択(大八木、前川) 第13講 講話①/講話②(池田、田中) 第14講 講話③/講話④(千葉、青木) 第15講 講話⑤/講話⑥(樋口、鬼頭) (内容・順序を変更することがあります)						
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください(180分)。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートなどを課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは前川(6号館6418)です。						

授業科目名	環境保全学		科目コード	381303	授業コード	423806	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	EIER2003			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。						
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境変化の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社、2006」、「最新日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社、2019」など						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します						

授業科目名	野生動物学		科目コード	381404	授業コード	423504	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	EIEN4008			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。						
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理 1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理 2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に関係のある法律・条約 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	都市環境学		科目コード	381503	授業コード	426501	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	EIEP4006			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	四日市市は、四日市ぜんそくを引き起こした都市環境問題と、その対策と改善について、深く経験してきました。その観点から四日市市は、都市環境学を学ぶうえで、全国的にも象徴的な都市ということが出来ます。本講義では、都市部の環境問題、エネルギー、都市計画など、現代社会における都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修します。						
到達目標	本講義では、環境問題、特に都市環境に関する専門知識や技術を習得するとともに、都市環境問題の社会的課題や特徴について学修していきます。具体的には、現代社会における都市部の大気環境、水環境をはじめ、エネルギーシステム、廃棄物処理など、都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修し、さらに防災やインフラストラクチャーの整備、まちづくりについての理解を深めます。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  第2講 都市環境とは  第3講 都市の大気と気候  第4講 都市災害  第5講 都市環境のモニタリング  第6講 都市のインフラストラクチャー  第7講 都市のエネルギー供給システム  第8講 都市の水供給システム  第9講 都市の廃棄物処理システム  第10講 都市環境計画とまちづくり  第11講 施設見学1  第12講 施設見学2  第13講 施設見学3  第14講 グループワーク  第15講 まとめ</p> <p>2024年11～12月の週末（土日）を中心に、四日市市内の公共環境保全施設、環境学習施設での開講を予定しています。基本的に開講場所での現地集合、現地解散となります。開講場所の中には、交通不便地も含まれています。若干の交通費や、あるいは交通手段が必要になる場合があります。</p> <p>現時点では、2024年11月30日（土）、2024年12月8日（日）、2024年12月15日（日）、2024年12月24日（火）での開講を予定していますが、開講日時、開講場所は変更になる場合がありますので、確定後、2024年10月上旬頃までに、履修登録者に対してMoodleかUNIPAでアナウンスします。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。						
成績評価方法	小テスト 5点×8回 = 40点 レポート課題 20点×3回 = 60点 計100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行います。また、レポート課題については、提出内容について、必要に応じてMoodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、環境保全施設の見学等により、実際に都市環境の維持が行われている現場を間近に体験したり、これらに関するグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、都市環境のマネジメントに関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、都市環境の維持に必要な環境保全施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	381506	授業コード	425304	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	EIEP4004			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。授						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域連携環境講義		科目コード	381507	授業コード	425203	
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EIEP4001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。						
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。						
授業計画	<p>(各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。)</p> <p>第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉</p> <p>第2講 四日市市の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第3講 三重県の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第4講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉</p> <p>第5講 藤前干潟の保全とゴミ問題、(外部講師)</p> <p>第6講 SDGsとESD、(外部講師)</p> <p>第7講 音楽による里山文化の発信、(外部講師)</p> <p>第8講 三重県の地球温暖化対策、(外部講師)</p> <p>第9講 四日市市周辺の自然環境保全、(外部講師)</p> <p>第10講 企業と環境対策(外部講師)</p> <p>第11講 三重県の林業と今後、(外部講師)</p> <p>第12講 北勢地域における地域農業の展開、(外部講師)</p> <p>第13講 吉崎海岸の清掃活動とウミガメ保存、(外部講師)</p> <p>第14講 伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、(外部講師)</p> <p>第15講 伊勢湾の水質環境、千葉</p>						
テキスト・教材(参考文献)	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性(自分の生活とどのように関わっているか)を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点(優秀レポートには加点)して成績評価する。遅刻者は減点する。期末試験はない。						
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様へ感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。						

授業科目名	地域社会とメディア情報		科目コード	381703	授業コード	423805	
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志		科目ナンバリング	EIMR2003			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信をおこなっている方々からの声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。</li> <li>・学びを地域に関連した研究活動や、作品制作活動、将来のビジョンに繋げる。</li> </ul>						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 ラジオ 第3講 グラフィックデザイン 第4講 舞台 第5講 TVディレクター 第6講 ケーブルテレビ 第7講 カメラマン 第8講 広告 第9講 イベントホール 第10講 新聞 第11講 シティプロモーション 第12講 情報と職業1 第13講 情報と職業2 第14講 情報と職業3 第15講 まとめ ※講義順は変更の可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	予習 次週の講義に関してインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料を見返し理解を深めること（90分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。受講態度と各回の講義で提出するレポートで評価し、合算します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツツペーパーやレポートを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
アクティブラーニング	ミニツツペーパー、レポート、ディスカッション						
実務経験のある教員	20年以上メディア業界で経験を積んだ専門家が、この講義の司会進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。						
担当者から一言	必要な作業以外でのスマートフォンの使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	映像概論	科目コード	381903	授業コード	424202
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	EIMM4003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて映像のリアルを学びます。				
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが張れるようになる。 ②授業を通じて一通りの映像制作のノウハウを学び、知識とスキル向上させる				
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画を鑑賞～ 第3講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画の感想～ 第4講 映像作品ができるまで ～企画・制作・編集・OA～ 第5講 映像技術 ～前川先生による講義・映像を実現するテクノロジー～ 第6講 企画書・企画会議とは 第7講 現場取材・インタビューのノウハウ 第8講 台本・脚本の作り方 第9講 作品鑑賞①（サイレント映画） 第10講 作品鑑賞②（1980年代のテレビ番組） 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか ～賛否両論ディベート大会～ 第13講 ドキュメンタリー論 第14講 カメラ体験（撮影のノウハウ） 第15講 映像ビブリアバトル ※授業の進捗状況により、内容の変更や入れ替えがあります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキストや資料を配布				
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。見ることすなわち学習です。さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換する練習を積んでください。とにかく、よく見てよく読む。これが映像制作の事前・事後学習です。				
成績評価方法	授業取り組む姿勢：30%（出席率や授業態度など） 課題への取り組み：30%（内容のクオリティー、締め切り順守） 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、授業課の提出用レターケース、MOODLEのなかで最も効率よく提出できる方法を課題ごとに選択します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション・ディベート・フィールドワークなど、概論として座学の中に人前で発表する時間も設けます				
実務経験のある教員	テレビ番組のディレクターとして35年の経験。現在も名古屋の民放で現役としてスポーツ中心に取材をしている。現場で培ったノウハウを中心に授業を行います。				
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。				

授業科目名	音響照明概論		科目コード	381904	授業コード	424702	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EIMM4004			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	音響と照明に関する、それぞれの基礎知識を「オンデマンド授業」で講義します。光と音の性質を知ることから始まり、演出方法や理論、メカニズムやシステムに関する内容を扱います。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとってこの講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。2年前期開講の「音響照明技術」とあわせて履修することを推奨します。※「音響照明技術」より前に履修することが望ましいです。						
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識や、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気的基础」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「3点照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	なし。必要に応じてMoodleで資料をシェアします。						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回の授業時に小テストか小レポートをMoodleで実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説はMoodleやオンデマンド動画内で適宜コメントします。						
アクティブラーニング	小レポート、小テスト						
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎知識や理論をわかりやすく指導します。						
担当者から一言	課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。						

授業科目名	プログラミング実習応用 1	科目コード	382002	授業コード	422106
担当教員	足立 明信	科目ナンバリング	EIMT6002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	プログラミングにはさまざまな手法や言語があるが、その中でも幅広く使用されている言語のPythonを例にプログラミングの基本を学ぶ。本来、プログラミングとは情報技術の中の一つの手段であるため、プログラミングを行うことにより達成した目的があるものである。どういった目的に対してプログラミングという手段が有効であるかを理解し、目的を達成する技術としてプログラミングを学ぶ。				
到達目標	プログラミングとはどういうものかを理解し、基本的なプログラミングができるようになること。				
授業計画	第1講 ガイダンス～プログラミング言語Pythonでできる事～実習環境について 第2講 変数宣言・画面出力・変数の型・数値計算について 第3講 データ構造(リスト・タプル・辞書)について 第4講 制御フロー1(コメント・if文・比較演算子・論理演算子) 第5講 制御フロー2(for/while/continue/break) 第6講 関数(関数定義・引数・戻り値・デフォルト引数) 第7講 クラス・オブジェクト1(オブジェクト思考の概念について) 第8講 クラス・オブジェクト2(クラス定義・クラス変数・コンストラクタ・スコープについて) 第9講 組み込み関数1(print/input/formatなど) 第10講 組み込み関数2(型変換/数値計算など) 第11講 ライブラリの利用1(パッケージ/モジュールの概念について) 第12講 ライブラリの利用2(ファイル操作など) 第13講 ライブラリの利用2(エクセルの操作など) 第14講 ライブラリの利用2(データベースの操作など) 第15講 まとめ～プログラミング技術を使った課題の解決方法について ※受講生の理解度や授業の進捗によって、講義範囲は増減する可能性があります。				
テキスト・教材(参考文献)	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021)				
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。 実習環境はWebブラウザを使用してプログラミング及びその実行を行う事ができる、Google社のColaboratoryというサービスを利用します。 各自、初回の講義の前に、Googleアカウントを作成の上ログイン情報を忘れずにメモしておくこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。				
成績評価方法	「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)				
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、教育支援システム(Moodle)に提出する形とする。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。				
アクティブラーニング	実習				
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。				
担当者から一言	プログラミング未経験者は、プログラミングと聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、プログラミングは難しくありません。 理系も文系も関係なく、誰でもプログラミングはできますので、先入観のみで避けて通らない事を願います。 ※実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。				

授業科目名	グラフィックツール2		科目コード	382102	授業コード	425603	
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	EIMP6002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス</li> <li>2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど）</li> <li>3.色調整・サイズ調整</li> <li>4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など）</li> <li>5.選択範囲作成1（画像の切り抜き）</li> <li>6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など）</li> <li>7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小</li> <li>8.ペイント・色変換</li> <li>9.文字入力・加工/フィルター・その他ツール</li> <li>10.デザインの実践1（バナーデザインなど）</li> <li>11.デザインの実践2（illustratorとの連動）</li> <li>12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成）</li> <li>13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用）</li> <li>14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成）</li> <li>15.合評会</li> </ol>						
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。						
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 [これ面白い画像だな]とか[どうやって作ったんだろう]という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
アクティブラーニング	実習を行います。						
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。						
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	Webデザイン	科目コード	382103	授業コード	421607
担当教員	堀内 敬弘	科目ナンバリング	EIMP6009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウィルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。				
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。				
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め</p> <p>第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング</p> <p>第3講 ワイヤフレーム制作①</p> <p>第4講 ワイヤフレーム制作②</p> <p>第5講 デザイン制作①</p> <p>第6講 デザイン制作②</p> <p>第7講 デザイン制作③</p> <p>第8講 デザイン制作④</p> <p>第9講 デザイン制作⑤</p> <p>第10講 デザイン制作⑥</p> <p>第11講 デザイン制作⑦</p> <p>第12講 デザイン制作⑧</p> <p>第13講 デザイン制作⑨</p> <p>第14講 プレゼンテーション準備</p> <p>第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	特になし				
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと</li> <li>・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック</li> </ul>				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30%</li> <li>・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼン力、及びクオリティ・理解度：80%</li> <li>・定期試験：定期試験はありません</li> </ul>				
授業内の課題・提出方法	<p>提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ</p> <p>提出方法：講義時にデータにて提出</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック				
アクティブラーニング	Macを用いた演習				
実務経験のある教員	デザイン会社代表				
担当者から一言	<p>Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。</p> <p>Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。</p>				

授業科目名	音響照明技術	科目コード	382107	授業コード	426101
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	EIMP6007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる				
授業のねらい	音響と照明に関する基礎技術を「集中講義」で身につけます。機材の取り扱いから始まり、プロの制作現場に必要な技術を実践的に学びます。ライブコンサートにおける音響や照明技術を学びたい学生にとっては必須の講義であり、後学期に開講の「音響照明概論」と併せて受講することをお勧めします。 ※ 本講義は「音響照明概論」の後に履修することが望ましい。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>音響と照明の機材を適切に取り扱うことができる。</li> <li>ライブコンサートに必要な技術を身につける。</li> <li>コンサートの完成に向けて、仲間と協力しながら建設的な取り組みができる。</li> </ul>				
授業計画	<p>&lt;1日目 7月20日(土) 予定&gt;</p> <p>第1講 照明1「機材の説明」 第2講 照明2「仕込み図面の読み方～セッティング」 第3講 照明3「セッティング～フォーカス」 第4講 照明4「フォーカス～プログラミング」 第5講 照明5「プログラミング」</p> <p>&lt;2日目 7月21日(日) 予定&gt;</p> <p>第6講 音響1「音響仕込み図の読み方」 第7講 音響2「出力系(スピーカー等)のセッティング」 第8講 音響3「入力系(マイク等)のセッティング」 第9講 音響4「ミキサーの設定」 第10講 音響5「スピーカーの音質調整」</p> <p>&lt;3日目 8月3日(土) 予定&gt;</p> <p>第11講 調整1 第12講 調整2 第13講 調整3 リハーサル 第14講 本番 第15講 まとめ</p>				
テキスト・教材(参考文献)	なし。(必要に応じてプリントを配布します)				
事前・事後学習	<p>予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること(90分)</p> <p>復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと(90分)</p>				
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニツツペーパーを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、実習				
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。				
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修定員を設けるため、受講希望人数が多い場合は抽選を行います。</li> <li>本講義は3日間の「集中講義」であるため、遅刻や欠席が、評価に大きく影響します。</li> <li>怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。</li> </ul>				

授業科目名	電子音楽ツール	科目コード	382108	授業コード	422603
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	EIMP6008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。				
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。				
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス・基礎知識</li> <li>2.コンピュータをつかった音楽制作とは</li> <li>3.音楽の基礎</li> <li>4.ループ音源を組み合わせる1※</li> <li>5.ループ音源を組み合わせる2※</li> <li>6.楽譜を音にする1※</li> <li>7.楽譜を音にする2※</li> <li>8.エフェクトとは</li> <li>9.MixDownとは※</li> <li>10.生音の加工1※</li> <li>11.生音の加工2※</li> <li>12.効果音の世界1※</li> <li>13.効果音の世界2※</li> <li>14.音作品製作1※</li> <li>15.音作品製作2※</li> </ol> <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>				
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。 分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>				
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出</p> <p>授業外では、Moodleやメールを利用。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。</p> <p>質問などのフィードバックは適時行う。</p>				
アクティブラーニング	Mac実習				
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有				
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。</p> <p>共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>				

授業科目名	作品制作	科目コード	382111	授業コード	424105
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	EIMP6004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる				
授業のねらい	プロが撮影や取材現場で使用するカメラを使ったロケや、グループを作って企画・録音・編集を自分たちの手で行うラジオCM。 また静止画と文章を組み合わせるストーリーを構成する授業などを行います。 特に制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を多く設け、「つくる」だけでなくメディアに必要な「伝える」ことの大切さを体験して身につけることを狙いとします。				
到達目標	プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。				
授業計画	第1講：ガイダンス ～クリエイティビティとは何か～ 第2講：ポートレート① 自分自身 第3講：ポートレート② なりきり 第4講：ポートレート③ プレゼンテーション 第5講：フォトエッセイ① 制作 第6講：フォトエッセイ② 制作 第7講：フォトエッセイ③ プレゼンテーション 第8講：撮影実習 カメラの基本操作① 第9講：撮影実習 カメラの基本操作② 第10講：シナハン・ロケハン 第11講：脚本制作 第12講：撮影① 第13講：撮影② 第14講：撮影③ 第15講：プレビュー&まとめ ※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。				
事前・事後学習	制作だけでなく、授業以外にも自ら継続的に創作活動を行う意識を持ってください。日々様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、舞台、テレビ番組、小説、配信番組、ライブコンサートなど、スキルアップにつながる行動をどん欲に行う習慣を身につけてください。				
成績評価方法	授業・課題への取り組む姿勢 30% 課題制作への意欲・参加度 30% 作品内容・完成度 20% 試験に代わる課題、もしくはレポート 20%				
授業内の課題・提出方法	教員に直接手渡し。もしくはメール、教学課提出BOXなど、適切な方法を指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	採点し必要に応じて返却します。				
アクティブラーニング	映像作品の制作に関する基礎基本的な静止画の撮影、文章表現、機材を用いたの撮影体験やシミュレーションを行います。				
実務経験のある教員	中京テレビをはじめ、在名各テレビ局で番組制作の経験あり。現在も現役として企画から完パケまでを手掛けている。				
担当者から一言	普段から多種多様な作品に触れたり、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。				